

# 平成 30 年度 自己評価表

様式 2

中長期目標 (学校ビジョン)	岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。	今年度の 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。</li> <li>2 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。</li> <li>3 生徒の主体的な学びを支援し、解決する力、決断する力を身につけさせる。</li> <li>4 多様な生徒を理解し、一人ひとりの自己肯定感を伸長する。</li> <li>5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。</li> </ol>
-------------------	---	--------------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 ( ) 月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
実 1 進路指導の充	○進路実現のための系統的な指導方法の充実	○ここ6年間進路実現100%が続いており、指導方法が確立・定着しつつあるが、生徒個々の進路希望に柔軟に対応し、より質の高い進路実現を追究していくべく、第1志望を実現させる果敢な指導が求められる。	○適切な時期に進路学習が行われ、進路実現に結びついている。 ○進路実現100%。また、第1志望での合格率が90%達成。 ○2年次末までの進路希望未決定者10%以下。	○進路面談や進路学習を学年との連携により強化し、3年間を見通した系統的な指導方法へ深化させる。 ○全職員による懇切丁寧な面接等の実施。 ○進路希望者への個に応じた学習指導内容を研究し、効果的な指導体制を確立する。			
	○基本的な生活習慣とマナーの定着	○服装頭髪再検査者は1クラス平均8人前後である。 ○頭髪については、軽微な違反がほとんどである。	○挨拶、返事、服装等のマナーと基本的生活習慣が身に付いており規範意識を持っている。 ○再検査者数は1クラス平均5人以内になっている。	○全校朝会にて基準を明確に示した上で服装頭髪検査を実施し、校則の徹底指導と、全職員による日常的なきめ細やかな指導を充実させる。 ○家庭との連携を密にとり、生活環境を整える。			
	○豊かな人間関係づくりの推進	○メール・LINE等による友人とのやり取りで小さなトラブルが起き、不安感を感じる生徒がいる。 ○周囲への配慮に欠けた言動により不快な思いを抱く生徒がいる。	○携帯電話等に頼らず自分で考え、直接話をする事の重要性を知っている。 ○携帯電話等の使用マナーが身につけている。 ○周囲に配慮した言動に心がける。	○生徒会主催の情報モラル研修会等の取組を充実させる。 ○岩美高生としての自覚や誇りを持てるよう学校祭、その他の行事を企画する。			
2 生徒指導の充実	○生徒会活動の充実	○部活動に所属していない生徒が1名となっている。全員加入に向けての指導が必要である。 ○日常生活やボランティア活動において生徒の主体的・積極的な行動が必要である。	○部活動全員加入を継続し部活動をとおして忍耐力や礼儀の向上につながっている。 ○生徒の積極的なボランティア活動や美化活動が行われている。	○部活動加入指導を徹底する。 ○イワツククラブの活動を充実させる ○生徒主体のボランティア活動や美化活動を推進する。			
	○基礎学力の向上	○100%検定全教科の初級合格率は1年未で28%、2年未で41%であるが、3年未では100%を達成している。 ○家庭学習時間は平日で1日平均50分程度であり、増加が望まれる。また、30分未満の者が31%である。家庭学習を習慣化する必要がある。	○100%検定全教科の初級合格率を1年未で30%、2年未で45%、3年未で100%を達成する。 ○平日において1日1時間以上の家庭学習が習慣化され、特に、30分未満の者が30%未満を達成する。	○100%検定合格率が向上するよう、教科と学年団で現状を共有し連携して補習等に取り組む。 ○家庭学習時間が少ない生徒に対して学年団で面談指導を実施する。			
	○学習指導の改善	○教室のUD化および生徒の主体的な学びを支援した授業を心がけているが、生徒は苦手意識がぬぐいきれていない。自己の学びにおいて解決する力、決断する力の育成が必要である。	○生徒の授業に対する項目についての観点評価の肯定的な評価が85%を達成し、生徒が主体的に学ぶことを支援し、解決する力、決断する力が身につけている。	○AL等の校内授業研修会、公開授業月間を実施し、また他校の研究授業等への参観を行い、授業の質を高める。 ○生徒の視点に立ち、生徒が分かり易く、学ぶ意欲が向上するような授業を研究し共有化を図る。			
教 4 育保健全・人権	○個を大切にしたい教育環境の改善	○生活満足度アンケート結果では、生徒は自己肯定感が高くなく、自分に自信が持てない傾向にある。 ○授業および教育環境のユニバーサルデザイン化(UD化)をさらに充実させる。	○生徒にとって学校が居心地のよい場所であり、大切にされていると実感できる。 ○学校評価生徒アンケートで、授業および学校生活に関する質問への肯定回答が85%以上である。	○生徒の自己理解・他者理解を促し、自己肯定感が高まるような取組を工夫する。 ○岩美高版UD等チェックリスト(仮称)を活用し、UD化や効果的な指導・支援を進める。			
5 づくりの充実	○地域と連携した学校づくりの推進	○第2学年で地域貢献と人材育成を目的として「100%・ミッション」を実施した。実際に現地に出向き、地域の協力者と連携し、活動を展開した。 ○体育・福祉の授業や部活動で地域との交流が行われている。	○生徒が、地域と連携し地域に貢献する活動に意欲的に取り組んでいる。 ○感謝と支え合いの心を持って、地域に貢献していこうとする精神が育っている。	○重点校として地域との連携をより深め、生徒の育成を図るべく、2年目となる「100%・ミッション」を着実に展開していく(内容の充実・時間数の確保・連携体制の確立)。 ○校外での発表や他校との交流の機会を設ける(岩美町内・鳥取中央育英高・室戸高・環境大等)			